

【全体概要】

本県のいちごは約181ha栽培され、直売や都市近郊の観光農園等も活発であるが、一方では、うどんこ病やハダニ類を抑制するための薬剤防除の労力軽減と減農薬を望む消費者ニーズへの対応が課題となっている。そこで、紫外光照射と反射シートの同時利用が有効であることが示されたことから、これに天敵ダニ等の化学農薬低減技術を組み合わせた、兵庫県のいちご栽培に対応した防除技術導入を図る。

新品種・新技術等の概要

SIP（内閣府 戦略的イノベーション創造プログラム）により紫外光照射と反射シートの同時利用が有効であることが示されたことから、これらに天敵ダニ等の化学農薬低減技術を組み合わせた現地試験を実証ほにおいて実施し、兵庫県のいちご栽培に対応した防除技術導入マニュアルを作成し現地普及を図る。



実施体制図



課題と今後の対応

うどんこ病に対する紫外光照射の防除効果に関しては、全ての実証ほ場において高位安定を示し、実証農家の評価も高かった。

ハダニ類に関しては、3技術（紫外光照射、天敵製剤、光反射シート）を導入した場合、一定の効果を示したが、光反射シートによる葉裏への照射補強効果を現場において確認できなかった。また、光反射シート被覆による、①シート上の朝露と果実の接触による腐敗果の発生、②条間設置及び栽培ベット周囲への展張に対する設置手間という問題が生じた。防除効果安定に向け、紫外光照射の葉裏への補強方法の再検討が必要である。

紫外光照射の副次的な品質向上効果については、現地ほ場では、個体による差が大きく、効果確認に至らなかった。

主な取組内容

紫外光照射＋反射シートの光利用技術に、天敵等の化学合成農薬低減技術を組み合わせた防除技術について、県内3ヶ所で実証ほを設置し、技術的なポイントを検証した。

また、実需者である仲卸業者との意見交換会により、求められる品質や需要動向について調査した。

